

The service club to the YMCA



THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

“ TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2026年10会報 第454号

宝塚ワイズメンズクラブ

〒662-0977

西宮市神楽町 5-23

西宮 YMCA 内

Tel (0798)35-5987

六甲部 HP

QRコード



主 題 ・ 標 語

国際会長(IP) Johan Vilhelm Eltvik (Norway)

主 題 「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」

“Waking the Sleeping Giant with Blue Music”

標 語「YMI-人生を力づける」「YMI -Empowering Life”

アジア太平洋地域会長(AP)Rachan Maneekarn (Thailand)

主 題 「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」

Awakening the Asia Pacific with Blue Music

標 語 地域社会を力づけ、世代を鼓舞する」

“Empowering communities, Inspiring Generations”

西日本区理事(RD) 岡村遍導 (滋賀蒲生野)

主 題 「変わり続けようワイズメン！ 私たちが見たい西日本区に！」

Let's keep chaiging,Y's Men!

To become the Japan West Region we want to see.

標 語 「地域社会のリーダーとなり躍動しましょう」

Be a community leader and make a difference!

六甲部長(DG) 杉本隆人

主 題 和を以て貴しとなす

To be true to oneself through harmony.

宝塚クラブ会長 福田宏子

主 題 みつけよう。つながろう。よくなってゆこう。

Discover.Connect.Grow.

2026年 10 月例会

日 時：2026 年 10 月 14 日(水)18時30分

場 所：宝塚市西公民館ホール

会 費： 1,500 円

ドライバー： 多胡葉子・岡野泰和

開会点鐘 会長 福田宏子

ワイズソング 「いざ立て」

聖書・平和の祈り 若林成幸

ゲスト・ビジター紹介 会長 福田宏子

食前感謝の歌 ごはんだ・日々の糧

会 食

卓 話 「レインボー・ウィークの取り組みと学生生活」

関西学院大学人間福祉学部教授 武田 丈 氏

YMCA報告 担当主事 橋本 唯

誕生日のお祝い 会長 福田宏子

ニコニコ

閉会点鐘 会長 福田宏子

西日本区 10 月強調テーマ：ASF アレキサンダー奨学資金

YMCA のスタッフ・リーダーとの対話を通して YMCA 理解を深めて、ワイズの意義を再確認して YMCA とともに描く未来へ向けて歩みましょう。

森 博之 YMCA サービス事業主任(熊本ジェーンズ)

2026～2027 役 員	会長：福田宏子 副会長：金岡幸宏 書記：若林成幸 会計：小林康男 監査：長尾 亘・風早寿郎 担当主事：橋本 唯 直前会長：多胡葉子
事業委員長	Yサ：武田寿子 CS 環境：金岡幸宏 EMC：長尾亘 国際・交流：岡野泰和・石田由美子 広報・プリテン：若林成幸
特別事業 委員長	TIFA/NGO：小林康男 ファンド：金岡幸宏・多胡葉子 市民クリスマス：若林成幸
周年事業企画	岡野泰和・安行英文・金岡幸宏
六甲部主査	EMC 多胡葉子 国際役員 岡野泰和

10 月誕生日	21 喜多邦子 24 岡野瑞恵
9 月例会実績	会員在籍数(A) 17 名 例会出席総数(B) 21 名 (内訳) 会員(C) 11名(内ズー(0名) メネット・アソシエイト 3名(内ズーム0名) ゲスト・ビジター 7名(内ズーム0名) メイクアップ(内数 D) 2 名 会員出席率 C+D/A 64.7% 例会充足率 B/A 123.5%
9 月実績 にこにこ ファンド	ニコニコ 5,000 円 (累計 15,000 円) ファンド タカラムネ 24,740 円 (累 33,540 円) 真菰茶 0 円 (累計△6,250 円) その他 0 円 (累計 0 円) 合 計 24, 740 円 (累計 27, 290 円)

今月の聖句

「あなたの天を、あなたの指の業を、わたしは仰ぎ見ます。
月も、星も、あなたが配置なさったもの。」(詩編 8:4)

随 想

猛烈な暑さと共にあった夏の日々が過ぎ去り、いよいよ10月に入る。朝晩には涼しい風が吹き渡り、澄み渡った夜空には月や星が瞬く。本格的な秋の到来を感じる時期となった。古くから人は、この季節になると夜空を見上げ、そこに浮かぶ星々を仰いできた。名月、観月、星月夜、秋北斗、碇星… 等々、

俳句の季語には、やはり秋空に輝く月や星の美しさを表したものが多い。

夜空の星を仰ぐとき、私には大切にしている言葉がある。

「星を見るにはですね、星を見ないことです。星と星の間を見るんです。そう、暗い所に目をこらす。ふつう人は、自分の目に映る星だけを見ようとする。だがそれは星のすべてではないのだ。かすかな星ほど、人が暗い部分に目をやらぬ限り見えてはこない。」

(前島 誠『不在の神は<風>の中に』より)

この世界に全くの闇はない。じっと目を凝らして見つめていると、暗闇の中で尚も輝きを放ち続けている光があることに人は気づく。実に示唆的な文章である。

「光は暗闇の中で輝いている」(ヨハネ 1:5)

「直き者のために 暗きのなかにも光あらはる」(詩編 112:4／文語訳)

聖書にも、まさしく暗闇の中でこそ輝きを放つ小さな光を見出そうとした人々の姿・思いが刻まれている。アブラハムも、詩編の詩人も、またはあの占星術の学者たちも、彼らはそのような思いで夜空を見上げていたのかもしれない。

たとえどんなに深い闇の中でも、自分を照らし続けている光がある。秋の夜空を見つめながら、そのような希望を与えられていく者でありたい。

甲東教会牧師 新堀真之

武田 丈氏のプロフィール

研究分野:社会の中で抑圧や周縁化の対象となりやすい人々(貧困層、障害者、移民・難民、外国にルーツを持つ人など)のエンパワーメントや支援を研究。

当事者と共に課題解決や社会変革を目指す「参加型アクション・リサーチ」をアプローチの軸としている。

関西学院大学およびテネシー大学大学院でソーシャルワークを学ぶ。米国のNGOやインド等での実践・研究を経て、1999年に帰国。以降、外国人支援やNPO活動に従事しながら、日本・フィリピン間の課題や開発支援NGOについての研究を続けている。関西学院大学では人間福祉学部社会起業学科の准教授を経て、2010年4月より現職(教授)。



9 月 例 会 報 告

9月第一例会報告

9月の第一例会は9月9日(水)18時30分より西公民館ホールで開催された。出席者はメン9名メネット2名アソシエイト1名ゲストスピーカー及びゲストとして福田会長の教え子等若い世代の7名の計19名であった。

福田宏子会長の開会点鐘で始められ、食事後の卓話は、関西学院大学職員の篠坂直隆氏を講師に迎え、「若者は何を求めているのか」をテーマに、大学を取り巻く環境と学生のボランティア活動について講演をいただいた。

講演要旨は次の通りです。(AIによる要旨概略)

日本では18歳人口が減少を続ける一方、大学進学率は上昇し、大学数も増加してきた。しかし今後は少子化がさらに進み、大学間の競争や淘汰が避けられない。こうした中、大学には教室内の学びだけでなく、地域や社会に出て学ぶ機会を提供することが求められている。関西学院大学でも「Mastery for Service (奉仕のための練達)」の精神に基づき、ボランティア活動支援センターを中心に、学生と地域をつなぐ取り組みを進めている。

講師は、「今の若者は内向きで社会への関心が薄い」という見方に対し、実際には「誰かの役に立ちたい」「何か新しいことをやってみたい」「人とつながりたい」「自分の居場所がほしい」と考えている学生は多いと説明された。ただし、授業、アルバイト、就職活動などで学生は非常に多忙であり、継続的な活動だけでなく、単発・短時間・短期間でも参加できる多様な入口を用意することが重要である。

また、ボランティアは社会貢献だけでなく、異なる世代との出会い、仲間づくり、自分の可能性や役割への気づきにつながる。活動を通じて主体性、協働力、対話力、行動力などを身につけ、それを自分の言葉で振り返ることがキャリア形成にもつながるとのことであった。

講演を通じ、ワイズメンズクラブとしては、若者を単に「活動の担い手」として集めるのではなく、若者が参加しやすい入口をつくり、学生と地域と一緒に活動する仕組みを整えることが重要であるとの示唆を得た。特に、関西学院大学ボランティア活動支援センターとの具体的な連携が、今後の大きな課題となる。

(小林康男)



9月第2例会議事要旨

日時:9月16日(水)18時30分から20時45分 場所:西公民館会議室

出席:石田・金岡・小林・武田・多胡・若林 6名 (福田会長が病欠欠席のため金岡副会長が議長を代行)

議事要旨

1. 当面の例会運営を次の通り確認した。

10月14日(水)卓話:関西学院大学人間福祉学部教授 武田 丈氏。「レインボー・ウィークの取り組みと学生生活」

11月11日(水)卓話:鳥取大学の学部卒・庭樹園の職員 熊崎莉子氏、9月例会に出席。演題未定

12月19日(土)11時30分～ 大阪土佐堀クラブとの合同クリスマス例会(詳細別記)

2. じゃがいもファンド事業の荷下ろし・配荷作業

① 入荷作業日 10月10日(土)10時～12時頃 若林宅にて荷下ろし(配送便の到着時刻は前後する)

② じゃがいも 190箱、三種混合 140箱 計 330箱 (注)別に、三種混合36箱は十勝から宅急便で直送

③ 荷下ろし作業の協力者を依頼する。(マイカーは公民館駐車場を利用。)

④ 気温・湿度が高いので引き取りは1週間以内に。

3. 六甲部部会

日時:11月28日(土)14時～19時 神戸ポートピアホテル レインボーの間 会費:13000円

・14時 EMC フォーラム、15時10分 DBC 締結式、15時30分 六甲部部会(基調講演:黒田クロ氏「見方をカエルと人生が変わる」、17時 懇親会

・DBC 締結式は、宝塚クラブと京都ウエルクラブとの締結と。既に DBC の鹿児島クラブを加えたトライアングル締結となる。(鹿児島クラブと京都ウエルクラブは過去に DBC 締結済み)

・DBC 締結証書は区事務所で準備。印刷は金岡ワイズ、九州部長・京都部長への出席要請は石田ワイズから発送済み。締結式は部会ステージ上で行い、進行は、部会の司会者(大野勉ワイズ)が担当する。

・会員・アソシエイトの出席が望まれるので予定ください。出席確認は10月例会で。取り纏め:金岡ワイズ、

4. クリスマス合同例会

日時:12月19日(土)11時30分～ 阪神香栢園駅近くの「カクチーナ ケ インカント」35名募集 会費:5000円 クリスマス礼拝の牧師、アトラクションなど準備会で検討。宝塚は出席者の確保に注力。

5. 第28回チャリティーラン

・11月22日(日)10時～12時30分 神戸しあわせの村にて(三宮より市バス、9時10分発)

・クラブ協賛金30000円。個人協賛金 3000円、競技参加費 1000円。

・宝塚クラブは、たかラムネ販売(100個・収益は寄付)、1.2Km 仮装ウォーキングに出場。

・仮装用具(手塚治虫アニメの被り物)の作製日程は10月第2例会で調整。(候補日 11/18(水)午後)

6. クラブ会計(小林ワイズ)の報告に基づき次の通り進めることとした。

・9月15日現在、上半期の会費 20000円未納者が数名あり、今月中に納付を済ませよう督促する。

・2026年度六甲部費(1500×17名=22500円)が未納のまま。部会計に請求書の発行を要請する。

・たかラムネ寄付の会計処理について、売価@100×個数をファンド収入、同額を寄付額として計上する。

仕入原価・消耗品等はファンド収入欄でマイナス計上する。

7. 西谷こどもの森プロジェクトの視察を10月31日(土)に行う、当日はファミリー劇場の催しに相乗りする。

宝塚市は10月から定期バス便の運航を計画しているが、岡野・金岡ワイズの車での送迎を予定。

8. 「宝塚市中学校の部活地域移行に伴う支援」や「近隣大学の学生 YMCA との連携」の対応状況を報告。

隔月開催の「南ひばりガ丘ウインドシンフォニー・アフタヌーンコンサート」に聴衆として参加する傍ら、矢藤先生に対し宝塚文化財団・宝塚文化団体連絡会が共催する「第15回わくわく! そうぞう! たからん祭り」(2027.3.27 開催予定)への出演を提案。宝塚市文化財団のミッションと合致するとの考えから「たからん祭りジュニアの部」創設に向けた方向でサポートを継続。当面、若林・金岡で対応する。

9 六甲部役員会の議事録に関する Q&A

- ・9/6 部役員会(要点別記)は、去る7月に開催された第1回評議会で持ち越した重要議案「会計報告と予算」「部則改定」のいずれもが審議がなされず、次回役員会に持ち越し、となったことを批判する声が多かった。
- ・部則改定に関し、新たに「改定案2」として再提案されたがクラブとして次の意見を付して回答する。

- ① 第7条 5 部役員に事務局長新設に関し、主に職務分掌や責任分担が不明確、設置不要とする。
- ② 第7条 7 部事業の Y サ・ユース事業に関し、西日本区は2026年度から Y サ事業とユース事業を分離し将来に向けた事業再構築を目指し、Y サ主任及びユース主任を設けている。元鶴丹谷理事が提唱し、六甲部からユース主任を輩出しているにもかかわらず、六甲部はこの動きに何の対応機会も持ちえなかった。前回評議会では当面の対応として、今年度は Y サ・ユース事業を現状のままとしたが、この機会に神戸西クラブから排出のユース主任を交えて協議することを提案する。
- ③ 部役員等の選任に関し、部は長らく「輪番制」を続けてきたが、クラブの高齢化・少人数化が進んできたこともあって、今や「輪番制」はすでに形骸化している。輪番の良い面(主査の輪番制)は残し、部の執行役員である三役(部長・書記・会計)については「推薦制」を導入することを提案する。

10 各部会が次の日程で開催される。参加申し込みは石田ワイズが取りまとめ。

9/19 瀬戸山陰部、10/3 九州部、10/10 西中国、10/24 中西部、10/25 阪和部、10/31 中部、11/14 びわ湖部

11.ブリテン10月号編集 編集案に基づき投稿分担を確認した。投稿期限は9月28日。

以上(若林)

第12回「きらりと輝くアート展」の 本年度の開催が決定

今年もの六甲部、地域奉仕・環境事業の取り組みとして、主題のアート展を下記のスケジュールで開催することに決定しました。

開催日：2027年3月19日～21日

(18日搬入日)

場 所:兵庫県立神戸生活創造センター展示ギャラリー

神戸市長田区二葉町 5-1-32 新長田合同庁舎1F

{JR新長田駅より10分 神戸市営地下鉄駒ヶ林駅スグ}

※11月末までに、各クラブから出展作品の募集をしてまいります。

(地域奉仕・環境事情委員会 金岡幸宏)



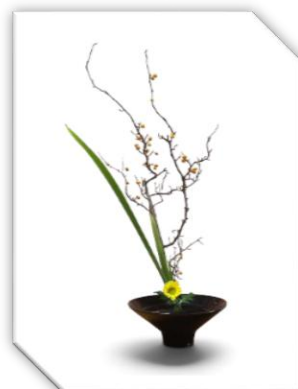
「今月のお花」

秋には繊細な花材を用いて秋風と野の風景を表現します。秋は彩り豊かな花材に恵まれる季節です。赤や黄色の美しい実を付けるもの。紅葉、黄葉など、多彩な花材を取り合わせて秋特有の鮮やかな彩りを生けます。また、すすきなどの優しい秋草をなびかせるように生けることで爽やかな秋風が吹く野の風景を描写できます。

鯖尻松香

お誕生日おめでとうございます。(敬称略)

21 喜多邦子 24 岡野瑞恵



熊本震災支援活動報告

西宮 YMCA 職員 狩山晴奈さん（9月8日～11日）・石橋花華さん（9月12日～15日）

熊本 YMCA が八代市より2か所の避難所運営を任され、9月1日から運営が完全にYMCAへ移行されたタイミングで、支援活動に参加しました。避難所運営に携わり、避難者、行政、支援者など、それぞれの立場をつなぐ役割を担いました。

避難所では、毎食温かいものが食べられるわけではなく、これまで面識のなかった人と隣り合わせで生活する状況が続いています。1か月、2か月と避難生活が長期化する中で、避難者が抱えるストレスは私たちの想像以上のものだと感じました。

そのような中でも、全国のYMCAから駆け付けた仲間たちのアイデアによって、避難所は日々少しずつ変化していました。子どもから大人まで開放的に過ごせる憩いのスペースを設けたり、みんなで食事を囲める場所をつくったりと、「少しでも心地よく過ごせるように」という思いが形になっていました。私たちが帰神した後は、季節を感じられるお月見の催しも行われたそうです。避難生活の中にも、人と人とのつながりや季節を感じる時間をつくることの大切さを感じました。

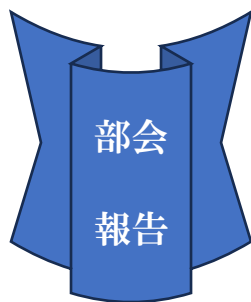
被災地域では、これまで井戸水を利用して生活していた地域もあり、水道の復旧に時間を要していました。そのため、自宅に戻ることができても、生活を再開するために支援を必要とする方も多くおられました。仮設住宅の建設も進んでいますが、必要数がまだ十分に確保されておらず、避難生活の長期化が予想されます。

今回の活動を通して、支援は一時的なものではなく、息の長い取り組みとして続けることが重要だと感じました。避難所の状況はどんどん変わっていきます。今後も、避難者に寄り添い、気力を失ってしまった方への支援や、避難所から次の生活へつなぐ「出口支援」など、長期的な視点で支援していく必要があると感じています。



IIPRAY2026 公演が9月5～6日に開催され、長尾・石田・若林の3人で応援にいきました。広島を訪れる度に、忘れたい悲しみと共に広島市民の平和を祈る姿勢に圧倒されます。子供たちが演じるミュージカルも感動を持っていただきました。今回は特に力強い合唱に魅力を感じました。音楽のちから、呼吸のあったユニゾンが心にズンと響きました。その他のプログラムにも工夫がこらされ点から線へ、線から面へと広がりが感じることができました。関係者の並々ならぬ不断の努力があったことでしょう。このような機会にお招きいただいたことに感謝しています。いつまでも広島を応援させていただきます。

若林成幸



京都部部会

2026年 9 月 5 日(土)ホテルグランヴィア京都で開催の京都部部会に福田宏子会長と参加しました。16 時から第 1 部式典、17時から第2部基調講演、18時から第3部懇親会と言う流れで、京都部らしくパワフルで豪華、参加者も511名、と西日本区大会並みの盛況ぶりでした。

式典の後の基調講演、「京料理と包丁」は京料理「木乃婦」三代目の高橋拓児さんと創業460年、老舗刃物店「有次」19代目の京都部部長の寺久保吉雄ワイズによる60分でした。

京料理が織りなす技と伝統を息の合った分かりやすい会話と実演を交えての説明でした。日本料理と西洋料理の大きな違いは包丁の種類と用途だとかってホテルの料理長から聞いたことがあります。お話を聞いてそれを思い出しました。

懇親会は最初からカラオケ大会のノリで18クラブから代表者が大音響と共に歌い、のど自慢を競いましたがお隣のワイズとの交流が出来ず折角の機会を失ったことは残念です。

賑やかな事で有名な台湾のクラブの周年例会を思い出した人は私だけではなかったようです！閉会後の混雑を避けて二人で早退・・・ お疲れ様でした。

石田 由美子



9月19日にホテルモントレ姫路で開催された瀬戸山陰部部会に宝塚からは石田ゆみワイズと多胡が参加しました。午前10時から竹内芳江部長の開会挨拶・点鐘で始まりまりました。参加者は78人、西は熊本、東は仙台から、そして姫路YMCAのリーダー7人も参加しました。

第一部を大阪YMCAの副総主事であり大阪サウスクラブの山根一毅ワイズの「震災復興について」の講話。山根ワイズは10年前には熊本で大震災を体験、その被災地の渦中でのYMCAのスタッフとしてまた、ワイズのメンバーとしての尊い体験 に基づいたお話でした。

休憩を挟み、「笑いヨガ」の実体験を姫路ヨガクラブのメンバーの指導により、参加者一同お互い手を取り、顔を合わせ、大きな声一杯に響かせ大いに楽しみました。

第二部は窓から姫路城が一望できる会場へと移動。オープニングのワイズバンド演奏で懇親会が始まり、大いに飲み、食し、楽しい歓談のひと時を過ごしました。一同お腹が落ち着いた頃、姫路YMCAとワイズが共催している「ひとり親家庭の子どもを対象にしたデイキャンプ」の報告が参加したリーダーたちからパワーポイントを使って紹介され、一同その豊かな働きに大いに感動をしながら聞き入りました。

その後再びワイズバンドの登場。キャンプソング・昔懐かしい歌謡曲などをバンド演奏に合わせて大合唱をし盛り上がりしました。最後には恒例のアピールタイム、そして中締め、二次会場へ向かわれる方、そのまま帰路に疲れる方、とそれぞれに解散となりました。

私たち 2 人は来る11月28日に予定されている京都ウエルクラブ・鹿児島クラブ・宝塚クラブの「トライアングル DBC 締結式」の打ち合わせを行いました。杉本部長、ウエルクラブの中村夫妻と 5 人で内容を確認して六甲部部会でスムーズに進行できるように備えました。

多胡 葉子



第 75 回国際大会報告

9 月 10 日から 13 日までマレーシアのペナン島ジョージタウンにてワイズメンズクラブ国際協会第 75 回国際大会が開催され参加してきました。当初はインド地域のホストでアラブ首長国連邦のドバイで開催される予定でしたが、中東情勢の不安定化により開催 1 年前に会場がペナン島に変更になりました。会場の変更とともに大会ホストもマレーシアやタイの方々を中心にアジア地域が大会実行委員やマーシャルなど多くの役割を担ってくださり、前回のチェンマイ国際大会に引き続き、南東アジア区のみなさんの素晴らしいチームワークで今回の大会も成功裡に導いてくださいました。

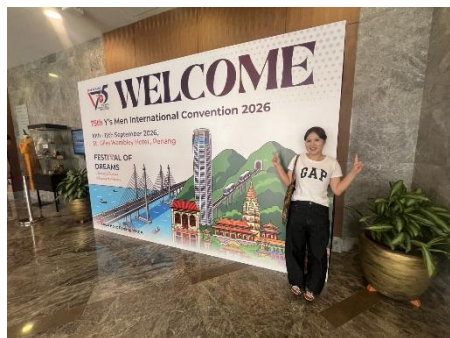
大会には世界中から 464 人のワイズが集まりました。また時を同じくして地元ペナン YMCA で開催された国際ユースコンボケーションには世界から 46 人のユースが参加し、合わせて 510 人のワイズファミリーがジョージタウンに集いました。日本からは東西区合わせて 71 人が参加しました。今回大学の夏期休暇中だった娘の日和も一緒に参加したのですが、娘は初日からユースコンボケーションのプログラムに急遽参加させていただけることになり、ほとんどの時間を同世代の世界中のユースたちと一緒に過ごすことができました(詳細は別項の報告記事をご覧ください)。大会の前日には RBM(ロールバックマラリア)チャリティーゴルフコンペが開催され私も参加したのですが、なんと優勝することができ大会の晩餐会で国際会長から表彰していただきました。

大会式典では全加盟国の紹介とともに国旗が入場する恒例のフラッグセレモニーから始まり、ヨハンエルトビック新国際会長と役員就任式や様々な基調講演などがあり、晩餐会では各国の趣向を凝らしたカルチャーナイトで連日遅くまで盛り上がりました。エクスカーショではペナン島の自然や多文化の共生する素晴らしい街並みや食文化を体験するなど、多くの学びと新旧の仲間との交流が花開く機会となりました。また地域ごとのセッションもあり、タイのラチャンアジア会長や地域役員就任式も執り行われました。大会を通じてヨハン国際会長のブルーミュージックのテーマが色濃く反映され、大会のために結成されたブルーミュージック合唱団も大活躍でした。

多くの知己を得てこれからのワイズ活動の方向を考えるとともに、世界の仲間との交流を通じて活動の原動力となるパワーが得られました。閉会式では来年の台中アジア大会のアピールがあり、また 2 年後の次回国際大会がインドのコチで開催されることが発表されました。そしてそれぞれに再会を誓い合い素晴らしい大会が幕を閉じたのでした。

追記:お土産としてジョアン前アジア会長の所属する香港のクラブからは是非にと IBC のお誘いがありました。詳細は第二例会で協議させていただけたらと思いますが、宝塚クラブの 40 周年にむけて新しい IBC の締結の可能性も考えてみてはでしょうか。

岡野泰和



IYC Youth の活動では、海岸のゴミ拾いや、脳性麻痺の子どもたちが通う学校を訪問し、校内の清掃や子どもたちとのゲームなどの交流を行いました。活動を通して、環境問題について考えると同時に、さまざまな背景をもつ子どもたちと関わる貴重な経験となりました。日本だけでなく、さまざまな国から集まった参加者と会話をしたり、一緒にダンスをしたりする中で、国や文化の違いを超えて交流することができました。多くの人と出会い、一緒に活動することで、異なる文化や価値観に触れ、自分の視野を広げることができました。帰国後も参加者同士で連絡を取り合っており、お互いの国の景色や食べ物を紹介するなど、現在も交流が続いています！ 今回の 1 週間は、多くの人との出会いやさまざまな活動を通して、新しい価値観や考え方に触れることができた、非常に充実した期間となりました。これまでの人生の中でも特に多くの経験をし、自分自身の視野を広げることができた貴重な 1 週間でした！！

岡野日和

